

中学生未来トーク 議事概要

開催日：令和7年11月28日（金）10時～11時45分

開催場所：ゆりのき台中学校 体育館

参加者：ゆりのき台中学校 3年生

1. 市長あいさつ

三田市のことを調べ、素晴らしい着眼点の提案をたくさんいただき、感謝申しあげる。63提案全てに目を通し、ユニークなものや、まさに市で検討していた内容の提案などもあって驚いた。また、このように中学生とトークするのは今回が初めてで、非常に楽しみにしている。本事業の実施にあたり、生徒のみなさんと先生方にご協力いただいたこと、心より感謝申しあげる。

2. 生徒からの提案発表・市長とのトーク

①ベビー用品の配達について（3組）

3組生徒：アンケート結果によると、三田市では、子育ての経済的負担軽減を求める保護者の声が多いことが分かった。ベビーカーを押しながらの買い物を大変に感じている保護者も多いと思う。そこで、生後3か月から満1歳までの子どもがいる家庭に対し、おむつや離乳食、おしりふき等を1か月に1回無料で届けるサービスを提案する。ベビー用品の配達は、子育て経験がある配達員が実施することで、子育てに不安を抱える保護者が配達員に悩みを相談でき、心のケアにつながると思う。また、経済的負担や買い物の負担軽減につながり、市内で子どもの人口が増えていくと考える。

市長：「保護者が悩みを相談できるように」「子育て家庭に寄り添う」という視点は、非常に大事な視点である。子育て世帯から経済的な負担軽減についての声があったので、令和7年度から「6つの無料化（①不妊治療ペア検査助成事業、②不育症治療支援事業、③新生児聴覚検査推進事業、④1か月児健康診査実施事業、⑤中学校給食の無料化、⑥子育て支援医療費助成事業）」を実施している。三田市では、公民連携を推進しており、連携協定を結んでいる事業者と市の課題を共有している中で、今後は子育て世帯の安心につながる支援なども含めて幅広く議論していきたいと思う。

3組生徒：もし今後、ベビー用品配達事業が実現した場合、どのように市民に伝えていくか。

市長：もし今後実現した場合は、子どもを産もうと考えられている方や子育て家庭などに届くよ

う、広報やホームページ、YouTube などを含めて発信方法を検討していきたい。

②「教育・育児サポートA I」について（7組）

7組生徒：市民の要望の中に、「教育などの相談先がほしい」という声があるが、チャッピーサポートセンターは認知度が低い上、夜中や早朝に相談することが難しい。人が24時間対応することも難しいと思うので、A Iを活用した相談先があれば、より相談しやすくなると思う。また、子育て中または子育て経験がある三田市民にアンケートを実施し、その結果をA Iに学習させることで、より地域に適した回答ができると思う。また、相談相手のキャラや音声の設定も可能にすると、機械的ではなく、話し相手として親しみやすさも増すと思う。この提案が採用されたら、チャッピーサポートセンターに行けない人も相談することができ、育児の不安が減り、子どもと過ごす時間が穏やかになると思う。そして、「三田で子育てしたい」と思う人が増え、子育てしやすく、あたたかく、相談しやすいまちになると思う。

市長：素晴らしい着眼点だと思う。三田市役所でも、以前、職員のみでA Iを活用した子育てに関する問い合わせ対応の実証実験をしたが、正答率が高いとはいえず断念した。もしA Iが間違った回答をした時に、子どもの命に関わる可能性もあるため、本格導入まで至らなかった経緯がある。現状、人と人との対話の中で、可能な限りのサービスを提供しているところであるが、本提案を踏まえて、子育て世帯へのアプローチについて参考にさせていただきたいと思う。また、「子育て家庭は特にこの部分に不安を感じていると思う」といった提案があれば、ぜひまた教えていただきたい。

7組生徒：チャッピーサポートセンターの対応時間外について、どう考えているか。

市長：現状は人での対応が大事であると思っているが、時間外にどのように職員を配置するかなど課題が残る。例えば、「特にこの時間帯に対応できれば子育て家庭が助かる」という傾向が分かれば、その時間に窓口を開けるということなどについて検討の余地があると思う。

③三田市の学校の統廃合について（2組）

2組生徒：資料や調べによると、地域の過疎化が進んで少人数の学校が多いことが分かり、集団としての組織力が低下していると思った。一方で、「統廃合すると校舎が遠くなる」「校舎の伝統がある」「避難所として使用していたので壊されるのは困る」「費用がかかる」といった統廃合に対する反対の声があることも分かった。そこで、校舎が遠くなる点に対しては、バスの運行や自転車通学を許可することで対応すること、「校舎を壊さないでほしい」という声に対しては、校

舎を民間の交流場所といった別の用途で使用することで対応することを提案する。また、調べによると、ふたつの学校がひとつになることで、多額の費用が浮くとのことなので、費用の負担は軽減されると考える。この提案が採用されたら、学校の統廃合により、集団としての組織力が補えるようになると思う。

市長：調べた数字などをもとにされた提案で素晴らしい。統廃合については、特に通学についての心配の声が多く、安全確保を最優先して考えていきたい。神姫バスとの包括連携協定のもと、課題等の話し合いをしているところであるが、例えば、乗客のほとんどが生徒である路線バスが通る地域で、スクールバスを運行させた場合、その路線バスが廃止になって周辺住民が困るケースも考えられる。このようなことから、慎重に検討を進めていく必要があると思っている。今後もより良い環境づくりを目指して検討していくので、引き続き関心を持ってほしい。

2組生徒：これまでの協議の中で、どのような反対の声があったか。

市長：「学校がなくなると、地域の活気が失われるのでは」という不安の声や、校舎が遠くなることについての不安の声などがあった。子どもたちの思いを一番大事に、検討を進めていきたい。

④「放課後の自習」について（6組）

6組生徒：部活動の地域展開がスタートすれば、地域クラブに入らずに放課後がフリーになる人がいると思う。放課後に自習をしようと思っても、現状、公共施設の自習スペースはすぐに埋まってしまう。調べたところによると、実際に図書館などで「学習席を増やしてほしい」という声があることが分かったが、市民センターや図書館での自習スペースを増やすのは難しいと考える。そこで、放課後の空き教室を活用して自習スペースとすることを提案する。また、元教員や大学生に自習の見守りスタッフを依頼し、市費や、利用者から徴収した利用料で謝礼を支払うのも良いと思う。この提案が実現すれば、三田市の更なる学力向上につながり、親世代からの人気が高くなると思う。また、勉強がしやすい市として、人口増加にもつながると思う。

市長：放課後の自習については、中学校によって実施しているところもあり、定期テスト前のみの実施や定期的に継続して実施しているところなど、まちまちである。市としても、学校と連携し、提案いただいたような居場所づくりができるよう検討していきたい。以前から「三田市で子育てしたい」という声もたくさんいただいているので、三田市が更に魅力的なまちになるよう、自習室の確保も含めて検討していきたい。

⑤「移動型スーパー」について（1組）

1組生徒：三田市の山間部にはスーパーが少なく、特に高齢者にとっては市街地まで買い物に来るのが大変で、買い物自体を諦めてしまうような人がいると思う。アンケート結果では、引越したい理由として、買い物などの不便さをあげる人が約40%いることが分かった。また、新たにスーパーを作ると、環境にも良くないと思う。そこで、食料や日用品を販売する移動型スーパーを提案する。市街地のスーパーと連携した移動型スーパーが実現すれば、三田のどこにいても買い物をすることができ、買い物困難者の助けになると思う。また、地域の交流の場となり、つながりができる良い機会になると考える。

市長：まさに私も課題に感じている内容であり、買い物困難者を増やさないよう、アプローチを検討している。現在、イオンやコープこうべと包括連携協定を結んでおり、市の課題を共有する中で、買い物困難者向けの解決策についても議論しているところである。また、高齢者の運賃助成や、志手原校区地域づくり協議会が主体となって実証実施されている相乗りタクシーの支援も行っている。買い物は心身の元気にも繋がると思うので、引き続き、改善策について検討していきたい。

1組生徒：買い物困難者を増やさないために、どのようなことを実施しているか。

市長：今まさに検討中の段階であり、包括連携協定を結んでいる事業者やその他の事業者と、対応策などについて話し合っているところである。

⑥「三田市観光業発展」について（5組）

5組生徒：三田市への観光客は増えてきているが、まだ知名度は低いと思う。その理由として、観光市場の縮小、新型コロナウイルスによるイベントやまつりの規模縮小、電車賃やバス代が高いことが考えられる。そこで、三田市の食や自然、アクセスの良さ、都市と農村が共存している点を生かし、地場産レストランの開業や、武庫川桜並木でのウォーキングイベントや有馬富士公園での子ども向けイベントの実施、SNSを活用したイベントなどの周知の実施を提案する。また、三田市が独自で運営する観光バスを運行させることも有効であると思う。この提案が実現すれば、まつりやイベントの参加者が増え、三田市が活気のあるまちになり、知名度も上がると考える。また、移住先として選ばれるようになり、人口増加にもつながると思う。

市長：三田市の魅力をより多くの方に知ってもらうため、まさに三田市が考えていかなければならない課題である。既に実施しているものとして、「さんだまち博」における神姫バスと連携し

た周遊バスツアーなどがあるが、これらのイベントや三田市の魅力をより多くの方に知ってもらえるよう、今後はSNSなどを更に有効活用したい。食の魅力発信については、旧「淡路風車の丘」の場所で地場産レストランがオープンしたり、三田牛がサウジアラビアに輸出されるようになり、これを機に、更に三田牛の魅力を広めていきたいと思っている。

⑦三田ごはん道でごはんどう？（4組）

4組生徒：三田市にはたくさんの飲食店があるが、その魅力が知られていないと思う。もっと多くの方に知ってもらい、市外の子育て家庭に「住みたい」と思ってもらうことで、地域活性化につながると思う。例えば、三田バルは夜から始まるお店や居酒屋が多い印象なので、お昼に子どもや大人が楽しめるイベントがあればいいと思う。そこで、三田駅周辺の飲食店に協力してもらい、子どもも楽しめる「三田ごはん道」というイベントを開催し、市やお店のSNSで周知することを提案する。提案が実現したら、三田市の魅力が増え、小中学生が「大人になっても三田市に住みたい」と思えるようになると思う。また、三田市の地域活性化につながり、新たなイベントの計画やインフラ整備にもつながると考える。

市長：現状、三田バルでもお昼から営業しているところがあるが、人件費や人の確保といったお店側の負担が考えられ、夜からの営業が多くなっていると思う。「三田ごはん道」のようなイベントを検討・企画する際は、協賛いただくお店側の負担も考える必要があるが、このような声があったことを関係者に共有したい。あわせて、三田駅前で開催している別のイベントなども、子どもやその親に楽しんでもらえるイベントとして積極的に周知していきたい。

3. 代表生徒からの振り返り

4組生徒：貴重な時間をいただき感謝している。提案づくりでは、根拠のデータを見つけることや実現までのプロセスを明確にすることを心掛けた。提案がより確かなものになるよう、各クラスの班同士で改善点を探すなど、熱心に議論を行ってきた。今日発表されたもの以外の提案も全て「三田市をよくしたい」という思いが込められている。この活動で、様々な角度から三田市を見つめ、より三田市のことが好きになり、ずっと明るいまちであってほしいと思った。今後も、より一層三田市に関心を持って過ごしていきたい。

6組生徒：学校のロッカーの増設に関する提案づくりの際、インターネットなどで資料を探しても、根拠となるような意見があまり見当たらなかったため、通学に使っているカバンなどのサイズを測り、ロッカーの余白が小さいことを示す資料とした。しかし、それは自分たちの状況を示しただけであり、三田市の税金を使って政策を進めていくのであれば、他学年や他校の意見など

も取り入れて検討する必要があると思った。今後もこのような機会があったら、幅広い人の意見を聴き、提案に反映させたい。また、今後インターネットなどで様々な情報に触れた際に、「自分がどう思うか」を大切にしながら生活していきたい。貴重な機会をいただき、感謝している。

4. 全体講評・エンディング

市長：三田市の良さや提案について深く考えてもらえたことや、様々な視点からの素晴らしい提案をいただけたことについて、市長として非常に嬉しく思っている。これを機に、三田市を更に好きになって、みなさんから市の魅力をたくさんの方に伝えていっていただきたい。本事業の実施にあたり、生徒のみなさんと先生方に多大なご協力をいただいたことについて、改めて深く感謝申しあげる。

5. 閉会